平成28年度一般入学試験問題

国　　語【看護学部】

（2月9日）

開始時刻　午前10時30分
終了時刻　午前11時30分

※　数学の問題は、本冊子の左開きのページにあります。

注 意 事 項

1. **試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。**
2. この冊子は21ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. **国語か数学のどちらか1科目を選択し、該当する解答用紙を切り離して解答してください。2科目とも解答した場合は、すべて無効となります。**

　　数　　学　1～4ページ
　　国　　語　1～17ページ

4. **解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。**

　① **受験番号欄**
　　受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄に**マーク**してください。**正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。**
　② **氏名欄**
　　氏名とフリガナを記入してください。

5. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、［ 10 ］と表示のある問いに対してⓒと解答する場合は、次の(例)のように**解答番号10の解答欄のⓒにマーク**してください。

(例)

10	ⓐ	ⓑ	ⓒ	ⓓ	ⓔ

6. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいませんが、どのページも切り離してはいけません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

一　次の文章を読んで、**問一**～**十**に答えなさい。

A空間と人間の関係は一体どんな関係なのだろうか。われわれが生まれ落ちた時、いや母親の胎内で受精が生じた瞬間に、われわれは一つの羊水という空間の中に位置づけられる。この場合、われわれには空間を選ぶことは出来ない。B人生の出発点で、人間の空間に対する関係が受身であることは極めて重要なように思える。しかし、それでは人間の空間に対する関係は人の一生を通じて受身かというと決してそうではない。生後まもなくから幼児は空間の先天的な認識能力を持っていることを証明する数々の行動を始める。はったり、歩いたりし始める頃には幼児は失敗することはあっても、通常、周囲の空間を正しく認識する。発達心理学にうとい私には推察の域を出ないが、さまざまな運動能力の発達とともに、空間にうまく適合する能力も発達して行くのであろう。子供のままごとやつみ木遊びは、やがて、積極的に空間に働きかけ、自分の空間にするC空間の切り取り行為の先駆的行為とみなしてよいだろう。空間には本来何もない。しかし空間は空間をうめている(生物を含む)ものがあって初めて意識される。空間を切り取るという行為はものともものとの間に自分の満足の行くような間[E]をおく行為なのである。どの文化に生まれてきても人間はみなこの行為をさまざまな形で行なう。その行為の基本は普遍的であろう。住居を例にとっても、こまかく観察すれば文化によって住居の形式は勿論(もちろん)異なる。しかしながら、どの住居も少なくともテントのように何らかの屋根と窓と入口が備わっているにちがいない。そのような空間の基本的な切り取りを超えた部分は各文化固有の特徴であるから、これは学習しなければならない。この世に生まれて、最初に与えられる自分の家の空間は空間学習の第一課ということになる。畳で部屋の大きさを計る空間感覚、多機能性の部屋の空間、へいや門によって二重にかこまれた家の閉鎖的空間、玄関というカンショウ(ア)空間などは、知らず知らず日本の子供に文化的制約を受けた空間の切り取り方を体得させているのである。

このように人の生得的・文化的創造行為の結果出て来た空間はそれ自体コミュニケートする。空間は自然の空間であれ、人工の空間であれ、コミュニケート出来る。早い話が、自然の景色の良し悪しを云々するのは、その空間に人為のはたらきかけがなくても、天然の空間の切り取り方に満足したり、不満を覚えたりするのである。日本の芸術、特に庭園、生け花などは自然の空間のコミュニケーションを模倣、再解釈したものと考えることが出来る。

われわれは地形・地勢、人口密度、土地面積、風土一般、都市の構造、交通網の構造、対人関係の構造などさまざまな自然・人工の空間の配置にとりかこまれている。D特に対人関係の構造まで空間学の対象に出来るのは次のような理由からである。例えば二人の伝達行為で意識される空間はその物理的環境ばかりでなく、どのような状況、つまり、お互いに座っているか、立っているか、一方が座って他方は立っているか、座っている場合、相手との間に机があるかないか、あるとしたら、その机の形はどんなか、その大きさはどのくらいか、机に向かい合っているのか、同じ側に並んで座っているのか、といった多種な空間の切り取りが二人の間に可能なのである。言語伝達を聞かなくても、この二人の空間配置は見る者にかなりのことを伝達してくれる。むしろE言語伝達などはこうした非言語伝達の附録にすぎないような極端な例を誰でも知っていることだろう。

人が空間をどう切り取るかは、人間が入って来ようが来まいが、人がその対象にするものに対して持つ心理的共感が重要な役割を果たしている。対象が人間の場合、共感度が高ければ、当事者の距離は通例それに反比例して近くなる。これは普遍的で、この逆になるような文化はまちがってもあるまい。相手を尊敬する時は相手との距離が出てきて、共感度も高いと思うかもしれない。しかし、相手を敬うということは相手の視点に立つ共感の真理とは程遠いのである。

F日本の町の空間は共感なしには使いにくい空間である。①一部例外はあるにしても、道が自然の切り取りで出来ていて、視座のきまりにくいレイアウトになっているので、外来者にはそこで例えば、誰かの家を探すのは至難のわざである。②外来者には実に冷たい空間なのである。③ところが、十年、二十年、一世代、二世代と住んでいればその町の空間配置に共感した状態になり、どこに何があるか、その全体像に習熟しているのである。アメリカの町の空間はだいたいその逆で、町の空間は共感があってもなくても、つまり、新参・古参を問わず、同じように視座がきまるのである。④アメリカには日本のような空間的ネンコウ(イ)序列はほとんどないと言ってよいのである。⑤

それでは、言語と人間の関係はどうだろうか。われわれが生まれ落ちた時、日本語なら日本語、中国語なら中国語という、ある特定の言語の世界に、本人の意志・選択とは無関係に投げ込まれる。しかし、チョムスキーの主張するようなさまざまな言語の普遍的事実に照らして、われわれが言語能力に関して全くのG白紙で生まれて来るとは考えられない。言語習得の過程は初めはかなり受身的に見えるが、人間は持ち前の創造的能力を発揮して、やがては所与の言語を習得し、それに積極的にはたらき始める。言語を完全に近い伝達の道具として使用し、日常会話、演説、講演、手紙、論文、小説、随筆、戯曲などの形式で相手に自分の考え、思いを能動的に伝達するようになる。言語芸術の世界を創り出すのは、例えば建造物のような新しい空間芸術を人為的に創り出すのと同じように、能動的な行為なのである。

以上の観察だけでも人間に関して言語と空間はきわめて類似の関係を示していると言えよう。

先にちょっと触れたように、空間はほとんどすべて［ X ］だと言い切ることができる。それはいかなる空間も一度人間とのかかわりが出来ると人間の［ Y ］を規定するという意味でなのである。一方、言語が文化的、社会的事実であることは誰も否定しないだろう。言語も空間も文化的・社会的事実であるとすれば、人間の文化を貫く共通の原理で両者の本質が説明出来ると仮定するのはきわめて妥当ではなかろうか。

（牧野成一『言語と空間』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一　傍線部ア・イと同じ漢字を含むものを、次の各群のⓐ～ⓔからそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが［ 1 ］、イが［ 2 ］。

ア　カンショウ
　ⓐ 外交セッショウ　ⓑ ショウケイ文字　ⓒ ショウジュンを合わせる　ⓓ ショウジを閉める　ⓔ ケンショウ小説

イ　ネンコウ
　ⓐ コウミョウな手口　ⓑ コウショウ潔白な人柄　ⓒ コウシ混同　ⓓ バスで二時間のコウテイ　ⓔ けがのコウミョウ

問二　傍線部A「空間と人間の関係は一体どんな関係なのだろうか」の答えとして、最も適切なものを次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は［ 3 ］。

ⓐ 人間は空間に対し受身でスタートするが、空間に対する認識能力や適合能力を発達させつつ、積極的に空間を自ら創造する。
ⓑ 空間と人間は、常に人間の周りに空間が配置されているという不即不離の関係で、人間が空間を模倣したり解釈したりする。
ⓒ 人間が初めて空間を知るのは母の胎内であり、誕生後は文化固有の住居空間から人とのコミュニケーション能力を発達させる。
ⓓ 空間は、幼児のさまざまな運動能力を証明する場であり、そして、空間の切り取り行為という文化的創造行為を実行する場である。
ⓔ 人間は誕生以来一貫して空間の切り取り行為によって社会や文化を構築しつつ、心理的共感という空間を人間関係や町の構造にも作る。

問三　傍線部B「人生の出発点で、人間の空間に対する関係が受身であることは極めて重要なように思える」のはなぜか、それを説明したものとして最も適切なものを次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 4 。

ⓐ　幼児は母親から完全な愛によって守られるという受身的な態度によって、大人に成長していくものだから。
ⓑ　人間は何もできない状態でこの世に誕生するので、そもそも空間に対して受身にならざるを得ないから。
ⓒ　人生の後半で空間の切り取り行為を能動的に行っていくためには、初めは受身でいることが必要だから。
ⓓ　人間の生命の生成や誕生が自然の摂理に基づく受容的なものであることをこの事実が示唆しているから。
ⓔ　人間は文化的創造行為の結果としてできた空間の制約の中で生きていくものだから。

問四　傍線部C「空間の切り取り行為」の説明として**適切でない**ものを次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 5 。

ⓐ　ものともものとの間に自分の満足の行くような間をおくこと
ⓑ　人がその対象に対して心理的に共感すること
ⓒ　空間にうまく適合すること
ⓓ　自然を模倣、再解釈すること
ⓔ　子供のままごとやつみ木遊び

問五　傍線部D「特に対人関係の構造まで空間学の対象に出来る」の「まで」と同じ意味・用法の「まで」を次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 6 。

ⓐ　あさってまで休む。
ⓑ　親友まで僕を疑う。
ⓒ　駅まで行く。
ⓓ　入場は三人までだ。
ⓔ　ご参考までにお送りします。

問六　傍線部E「言語伝達などはこうした非言語伝達の附録にすぎないような」例として**適切でない**ものを次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 7 。

ⓐ　口の前に指を一本立てるだけで「静かに」という意味が伝わる。
ⓑ　何度も頭を下げる動作を見れば、謝罪していることがわかる。
ⓒ　眉間にしわを寄せて口をへの字に曲げると「いやだ」の気持ちが伝わる。
ⓓ　ピアノを弾く音を聞けば、その人のさまざまな感情が伝わってくる。
ⓔ　目を全く合わせようとしないことから、自信の無さや不安感が見える。

問七　傍線部F「日本の町の空間は共感なしには使いにくい空間である」とあるが、この場合の「共感」の具体的内容として最も適切なものを次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 8 。

ⓐ　他人の意見をその通りだと感じること
ⓑ　心理的な距離が近くなること
ⓒ　十分に慣れてなじむこと
ⓓ　同じ感覚を共有すること
ⓔ　相手の視点に立つこと

問八　本文からは「それは道の構成が主として碁盤の目のようになっているからである。」という文が抜き出されている。①～⑤のどこに戻したらよいか。最も適切なものを次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 9 。

ⓐ　①
ⓑ　②
ⓒ　③
ⓓ　④
ⓔ　⑤

問九　傍線部Gの「白紙」と同じ意味で用いられているものは次のどれか。最も適切なものを次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 10 。

ⓐ　答案を白紙で出す
ⓑ　白紙で交渉に臨む
ⓒ　白紙で鶴を折る
ⓓ　白紙委任状
ⓔ　白紙に決意を書く

問十　本文の空欄 X 、 Y に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 11 。

	X	Y
ⓐ	文化現象	生活様式
ⓑ	空間芸術	芸術一般
ⓒ	社会現象	行動規範
ⓓ	創造的行為	人生全般
ⓔ	文化的事実	共通原理

二

次の文章を読んで、後の**問一**～**八**に答えなさい。

認知科学の成果を学習の実践に応用するという考え方は、すでに一九七〇年代に生まれていた。ただし、こうした動きには単一の出発点があるわけではなく、いろいろな芽がいっせいに芽吹くことが多い。

そうした芽の一つは、前にも触れた米国のコンピュータ科学者シャンクが、一九八〇年代の末にノースウェスタン大学に創設した学習研究所と、そこを含めていくつかの拠点で始まった学習方法論の展開である。この研究所が掲げた学習科学ということばは、その後この分野を表す一般名詞にもなった。

学習科学は、学習の文化的な状況や文脈を重んじ、学習者が社会的な文脈に参加し、そこでの実践を通して心の中に知識をつくりあげていくという、A知識の社会構成主義的な考え方を中心に、一九八〇年代から九〇年代にかけて新しい潮流を形成していった。こうした考え方による学習の効果を検証するには、厳密な仮説検証型の検証実験でなく、実践の方法をデザインしていく中で検証も行っていくことが必要になる。学習科学を主導した一人のアン・ブラウンは、こうした方法論を「B/デザイン実験」と呼んだ。

学習についてのこうした考え方に対して、個別の状況や文脈に依存した観察では多様な学習のありかたを支える理論やモデルを構成することは困難ではないか、状況に依存した学習で得られた知識はその状況以外では使いにくいのではないか、多様な状況に臨機応変に応用できる柔軟で一般的な知識や、それを使いこなす方法こそ学ぶべきではないか、といった批判がある。【①】

学習科学の潮流とC/それに対する批判は、「学ぶということは、自分にとって意味のある個別の状況に関与することで初めて可能になるのか、それとも個別の状況に依存しない抽象的な学習方法によっても可能なのか」という問題に帰着する。【②】

たとえば、中学生が元素の周期律表について学ぶとき、個別の元素について個別の実験を自分で工夫するのと周期律表を頭から覚えるのとでは心のはたらきにどんな違いがあるのか。自分で色々な仮説を立てて検証するのと大量の情報を記憶するのとでは何が違うのか、何人かで意見を出し合いながら学ぶのと一人でジュッコウして学ぶのとではどこが違うのだろうか。【③】

何人かで学ぶことには、他の人が何かを言ってくれるということで自分が気づいていないことを意識できるという長所があり、その一方で、声の強い人に押されたり、自分の思考が他人の意見にすぐに左右されてしまいがちになる弱点もある。一人で学ぶことには、自分の考えをしっかりまとめていける長所とともに、自分の考えだけに閉じてしまいがちな弱点もある。ただ、「 X 」とは「 Y 」と「 Z 」のどちらなのか、それとも両方なのかといえば、人が学ぶことの基本は「 Z 」になることにあり、誰かとコミュニケートしながら学ぶことはそれを支える良い方法の

一つだと考えるべきだろう。【④】

なお、学習の過程に注目すると、知識の習得や心の中での知識の構造化はもちろんのこと、体験と記憶を結びつけて実践的な知識にする力の育成、学習方法を学習する方法、創造力の涵養、協働学習の方法、臨機応変の応用力やコミュニケーション力の養成、その他学習の多くの側面に認知科学が明らかにしてきた心のはたらきがかかわってくる。【⑤】

コミュニケーションの方法や社会のあり方が世界的に多様化するとともに、学習環境や学習方法も急速に多様化している。グループ学習もすでに常識になり、英語のような外国語活動も小学校高学年で必修化されるようになった。こうしたなかで、協働学習の場でコミュニケーションが取れずにイソガイされる児童や、日本語、外国語の表音文字を書くのに困難を感じる生徒など、昔は顕在化しなかった学習障害（LD）、注意欠陥・多動性障害（ADHD）などの発達障害が多く見出されるようになった。こうした障害に対応する学習の方法を考え、実践していくことも重要な課題になってきている。

また、デジタル技術やネットワーク技術を活用して能動的な学習の方法を身につけられる新しい学習環境を開発していくことも、認知科学が貢献すべき方向の一つである。とくに、教育の場を教室での一斉授業だけに限定しない、デジタルとネットのコミュニケーション環境を想定したオープンエデュケーションとそのための学習環境のデザインは、子どもだけでなく大学生から中高年に至るまで、生涯学習社会の基盤として世界各国の関心を集めるようになっている。

その一方で、机の上やネットを介した学習は、人が学ぶ方法の一部に過ぎない。最も大切な学習の方法は、体験を積み、それを元に新しい知識を得ていくことである。たとえば、地球環境を汚染から守るのが大事であることには、誰も反対しない。しかし、環境という相手は、実は茫漠としていて、勉強するといっても何から始めてよいのかさえよくわからない。環境教育では、いろいろな環境に身を置き、体験を通してさまざまな現象に関心を持つことが大切である。関心が目標に変わり、その目標を達成するために自分で広く知識を求めるようになるからである。

環境教育に限ることではないが、身体のはたらきを通した体験が関心を生み、関心が目標に変わり、目標を達成しようとする思考や記憶のはたらきによって新しい知識が得られ、そうした知識が心の中で構造化され、さらにその知識が自分で使えるようになって、初めて何かを学んだことになる。認知科学から見たとき、学習の基本はDこの点にある。

（安西祐一郎『心と脳――認知科学入門』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群ⓐ～ⓔから、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号はアが 12 、イが 13 。

ア ジュッコウ

ⓐ 昔の思い出をジュッカイする
ⓑ そろばんジュクに通う
ⓒ 作品がビジュツ館に展示される
ⓓ ミジュクな技術
ⓔ 結婚式のシュクジ

イ ソガイ

ⓐ ソボクな疑問
ⓑ クウソな議論が続いた
ⓒ ソアクな品質
ⓓ 十分なソチをとる
ⓔ 領主にジキソする

問二 傍線部Aの「知識の社会構成主義的な考え方」を説明したものとして最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 14 。

ⓐ 学習科学は、学習の社会的文脈を重視し、社会参加を通して、学習者の中に積み重なっていくとする考え方
ⓑ 知識は、その社会における学習の役割を踏まえ、学習者がその社会に参加・実践することを通して作り上げられるとする考え方
ⓒ 学習とは、文化的なものの中に組み込まれ、現実社会に参加することを通して、学習者の心の中に築かれるとする考え方
ⓓ 文化の持つ社会的な役割を重んじ、学習者がその社会に参加して、現実の知識を組み上げていくのが知識であるとする考え方
ⓔ 社会を構成する人間として、その社会の文脈や状況を重視して、学習者が主体的に知識を作り上げていくという新しい潮流に乗った考え方

問三 傍線部Bの「デザイン実験」で重視される方法として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 15 。

ⓐ 学習方法を設計しながら学習方法の妥当性を検証していく方法
ⓑ メタ記憶の発達を重視しながら学習到達度を検証する方法
ⓒ デザインを十分に考慮して実験する方法
ⓓ 学習の効果を検証する目的で、実践のあり方をデザインする方法
ⓔ 仮説としての学習方法をしっかり検証しながら進める方法

問四 傍線部Cの「それに対する批判」とはどのような批判か、最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 16 。

ⓐ 何人かで話し合いながら学習することは、新しい知識の定着と無関係であるという批判
ⓑ 教室の中で学習が完結してしまい、知識の獲得は困難ではないかという批判
ⓒ 体験を重視した学習方法では、多様な現実に対処できないのではないかという批判
ⓓ 知識は、社会のなかで生かされてこそ意味があるのではないかという批判
ⓔ 新しい考え方は、いろいろな場所で同時多発的に起こるものではないかという批判

問五 空欄 X ・ Y ・ Z に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 17 。

ⓐ X＝学ぶ人間　・Y＝創造する人間　・Z＝コミュニケートする人間
ⓑ X＝学ぶ人間　・Y＝コミュニケートする人間　・Z＝創造する人間
ⓒ X＝コミュニケートする人間　・Y＝学ぶ人間　・Z＝創造する人間
ⓓ X＝創造する人間　・Y＝コミュニケートする人間　・Z＝学ぶ人間
ⓔ X＝創造する人間　・Y＝学ぶ人間　・Z＝コミュニケートする人間

問六 傍線部Dの「この点」を説明したものとして最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 18 。

ⓐ 新しい知識を獲得し、その知識が定着して活用できるようになって、初めて学んだといえること
ⓑ 外界に対する関心が目標となり、目標を達成するために思考し覚えることを通して、知識が得られるようになること
ⓒ 環境教育に見られるように、体験を通して関心が生まれ、それが新しい知識となり、さらにその知識が使えるようになって、学んだといえること
ⓓ 学ぶとは、体験から関心が生まれ、それが目標となって、それに向かって得られた知識が心の中で一定の位置を占めて使えるようになること
ⓔ 漠然とした関心が、体験を通して明確な目標となり、その目標に向かって、知識を獲得していくことが可能となること

問七 本文は大きく前半と後半に分かれているが、前半の最後となるのは【①】～【⑤】のどこか、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 19 。

ⓐ【①】
ⓑ【②】
ⓒ【③】
ⓓ【④】
ⓔ【⑤】

問八　本文の前半には、「学習の科学」という題名が付けられているが、本文の後半の見出しとして最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 20 。

ⓐ　学習の過程
ⓑ　学習環境の開発
ⓒ　環境教育の必要性
ⓓ　体験と教育
ⓔ　能動的な学習へ

三　次の文章を読んで、後の**問一**～**八**に答えなさい。

二年前の五月、まいは小学校を卒業し、中学校に入ったばかりだった。始まりはいつもの季節の変わり目の喘息だった。けれど発作が起きなくなっても、まいは学校に行けなかった。学校に行くことを考えただけで息がつまりそうだった。

ママは困った。しかしケンメイだった。Aむだなエネルギーは一切使わなかった。なぜなら、もうそろそろ学校へ行ったほうがいいんじゃないか、とママが最初に何げなく言ったとき、まいはママの目をじっと見て諭すように真剣に言ったのだ。

「わたしはもう学校へは行かない。あそこはわたしに苦痛を与える場でしかないの」

ママは観念した。まいがこうまで言うのはよっぽどのことだから。けれど、かろうじてこう言った。

「わかったわ。じゃあ、とにかくしばらく学校を休みましょう。中学が始まって、まだ一か月もたっていないじゃないの。そんなに早く結論を出すことはないわ。きっとまだ完全に回復しきっていないのよ。二週間もすれば、気力も充実して元気になるかもしれない」

なぜ学校がまいにとって「苦痛を与える場でしかない」のか、ママが聞こうとしなかったのは、不思議だ。おそらく知るのが怖かったのだろう。ママはハーフだったせいもあって、学校というものにBついぞ溶け込めなかった。当時も今もこの辺りにはインターナショナル・スクールなどはない。まいの話を聞いて、学校生活というものを追体験するのが嫌だったのかもしれない。

まいは思った。それでもとにかく、ママは日本で大学まで卒業した。りっぱだ。なのに、わたしはすでに中学でザショウしようとしている……。

その夜、単身赴任しているパパにママが電話をかけた。まいはベッドに入っていたけれど、全身を耳のようにして身動き一つせず聞いていた。

「……ええ、喘息の発作はもうでないのだけど、学校へは行かないって言うの。……そう。あんまり強く叱ってもね、かえって逆効果でしょ。理由？　さあ。あの子はとにかく……。何ていうのかしら、感受性が強すぎるのね。どうせ、何かで傷ついたには違いないんだろうけど。昔から扱いにくい子だったわ。生きていきにくいタイプの子よね。……とりあえず、田舎の母のところでゆっくりさせようと思うの。空気がいいから、喘息にもいいしね。……登校拒否っていう言葉は知っていたけれど、まさかねえ……自分の子がそうなるなんて思ってもいなかったわ。 X ってこのことね。……ええ、まだそう断定するつもりはないわ、もちろん。でも優等生ですーっとき た子でしょう。まさかねえ……」

それからパパの仕事のことをきいている声が続いていたが、まいにはそんなことはどうでもよかった。ママはもうわたしに誇りが持てなくなったのだ。まいにはそれがいちばんつらく悲しかった。飛び出していって、「ごめんね、ママ」と謝りたかった。けれど心の底に、「扱いにくい子」「生きにくいタイプの子」という言葉が、錨のように重く沈んでいた。まいはそれは本当のことだと知っていた。

Cまいは小さくうなるように呟いた。この言葉は初めてつかう言葉だ。まいはちょっと大人になった気がした。

「認めざるをえない」

Dまいはもう一度呟いた。これですっかりこの言葉を自分のものにできた気がした。それから、学校に行くことに比べたらEこんなことまだ我慢できる、と自分に言い聞かせた。それにほら、ママは「田舎の母のところでゆっくりさせ」るって言っていた。

「それは認めざるをえないわ」

まいは、小さいころからおばあちゃんが大好きだった。実際、「おばあちゃん、大好き」と、事あることに連発した。パパにもママにもそんなことは照れくさくて言えない。おばあちゃんが外国のひとで、そのことでかえってストレートに感情を表現できるのかもしれなかった。そういうとき、おばあちゃんはいつも微笑んで、

「アイ・ノウ」

知っていますよ、と応えるのだった。

おばあちゃんと一緒に暮らせる、と思っただけで嬉しくなる。と、同時に一抹の不安もあった。「一緒に暮らす」ということは、時々「遊びに行く」ということとは違う、とまいは思った。

わたしの全体を知って、おばあちゃんはがっかりしないだろうか。ママががっかりしたように。そしておばあちゃん自身もまた、どこか底知れないところがあって、まいは少し怖くもあった。

でもそれが、まいがおばあちゃんに引きつけられる理由の一つでもあったのだけれど。

次の日曜日、まいはママの運転する車でおばあちゃんのうちへ向かった。当時まいたちは、おばあちゃんの家から車で一時間ほどのところに住んでいた。

ボストンバッグと段ボールに、学校の教科書や文房具、衣類、まんがや本、歯ブラシ、マグまで詰めた。

「おばあちゃんのうちにだって、ティーカップぐらいあるわよ」と、ママはあきれていたけれど、Fつい慣れたこのマグがあるとその回りにぽわんとした「自分の場所」のような空間が広がって、きっと予想されるホームシックが防げる、とまいは思ったのだ。

まいは時々ひどいホームシックに悩まされることがあった。それは、たとえ自分の家にいるときでもやってきたから、「ホームシック」と呼ぶのはおかしいかもしれなかったが、まいにとってはそれ以外の何者でもなかった。胸が締めつけられるような寂しさを感じてしまうのだ。

それがなぜ、どこから来るものなのか、おばあちゃんの家でもやってくるのか、このマグがどれくらい効果的か、まいにはわからなかったが、とりあえず万全の備えが必要だ。

車は長い長い峠の坂道を登り、山の中に入った。

（梨木香歩『西の魔女が死んだ』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一　傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群のⓐ～ⓔから、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが 21 、イが 22 。

ア　ケンメイ
ⓐ　重要なアンケンを処理する
ⓑ　ケンサンに励む
ⓒ　会長が社長をケンムする
ⓓ　センケンに学ぶ
ⓔ　ケンチョな表れが見られる

イ　ザショウ
ⓐ　ショウゾウカンに駆られる
ⓑ　シッショウを買う
ⓒ　大使館にサショウを申請する
ⓓ　カイショウがない
ⓔ　サンゴショウを守る

問二　傍線部A「むだなエネルギー」の説明として、最も適切なものを次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 23 。

ⓐ　学校へ行くよう説得すること
ⓑ　娘が学校へ行かないことで悩むこと
ⓒ　自分がハーフだったことでそうなったと、自分を責めること
ⓓ　夫（まいの父親）に何とかしてと頼むこと
ⓔ　学校に行って事情を聞くこと

問三　傍線部B「ついぞ」の意味として、最も適切な言葉を、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 24 。

ⓐ　うまく
ⓑ　いまだかつて
ⓒ　完全には
ⓓ　なかなか
ⓔ　最後まで

問四　空欄 X に当てはまる言葉として最も適切なものを次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 25 。

ⓐ　五里霧中
ⓑ　泣き面に蜂
ⓒ　禍福はあざなえる縄のごとし
ⓓ　青天の霹靂
ⓔ　運を天に任せる

問五　傍線部C「認めざるをえない」と傍線部D「それは認めざるをえないわ」について、自分への認識の仕方の説明として、最も適切なものを次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 26 。

ⓐ　傍線部Cでは、母に「扱いにくい子」と言われたことにショックを受けているが、傍線部Dでは、そのショックが悲しみに変わっている。
ⓑ　傍線部Cでは、母に「扱いにくい子」と言われたことにショックを受けているが、傍線部Dでは、仕方がないことだと開き直る気持ちが生じている。
ⓒ　傍線部Cでは、自分が「扱いにくい子」だと知ってショックを受けているが、傍線部Dでは、そのショックが悲しみに変わっている。
ⓓ　傍線部Cでは、自分が「扱いにくい子」だと知ってショックを受けているが、傍線部Dでは、仕方がないことだと開き直る気持ちが生じている。
ⓔ　傍線部Cでは、自分を「扱いにくい子」であると見ている母に反発を感じているが、傍線部Dでは、それを受け入れることができている。

問六　傍線部E「こんなこと」の表すものとして、最も適切なものを次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 27 。

ⓐ　ママに自分を「扱いにくい子」と思わせること
ⓑ　ママが自分に誇りを持てなくなったこと
ⓒ　自分が「扱いにくい子」であることを認めること
ⓓ　自分がママに辛い思いをさせていること
ⓔ　自分についての問題でママとパパが相談しなければならなくなったこと

問七　傍線部F「使い慣れたこのマグがあるとその回りにぽわんとした『自分の場所』のような空間が広がって、きっと予想されるホームシックが防げる」の説明として、最も適切なものを次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 28 。

ⓐ　マグが作る「自分の場所」に母も一緒にいるので、母と離れることが不安になる気持ちをおさえられる。
ⓑ　マグでお茶を飲むことでそこが「自分の場所」になり家にいるような気持ちになるので、家のことが心配になることをおさえられる。
ⓒ　マグが作る「自分の場所」が家を思い出させてくれることで、無性に家に帰りたくなるという気持ちをおさえられる。
ⓓ　マグが「自分の場所」を作ってくれることで、今いる場所が誰かに奪われてしまうような気持ちになることをおさえられる。
ⓔ　マグが作る「自分の場所」の中にいることで、その場が安心できる場所になり、家から離れているという不安をおさえられる。

問八　本文から読み取ることのできる「まい」と「ママ」の関係についての説明として最も適切なものを次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 29 。

ⓐ　「ママ」は「まい」と親しくなりたいと思っているが、「まい」がそれを拒んでいる。
ⓑ　「まい」は「ママ」のことを信頼しているが、「ママ」は突き放している。
ⓒ　「まい」と「ママ」の間には少し距離があるが、互いに信頼し合っている。
ⓓ　「まい」と「ママ」の間には少し距離があり、二人の心の奥には不信感が存在する。
ⓔ　「まい」と「ママ」は親密な関係にあり、悩みを共有することができている。